

Chance!



新年のご挨拶

新春のお慶びを申し上げます。

事業の喜びは、達成することにあります。如何なる時代も、危機とチャンスは裏腹であり、危機もまたチャンスです。環境に適合し、「脱皮をし続ける組織のみが存在できる」ということを再確認する契機として、元旦をとらえたいものです。

「国内産業の未来は暗い？」

バブル崩壊後の日本。失われた 20 年。1989 年には 300 兆円弱であった日本政府の借金は 2014 年末には約 1,200 兆円に達しました。1 年当たり平均 60 兆円を積み上げた事になります。税外収入もありますので、単純比較はできませんが、直近の国の税収は約年 50 兆円。国の財政事情は、国外脱出を不得手とする企業と国民に課税制度の関心を集中させています。消費税増税、相続税増税、給与所得控除の引下げ等の直接的な課税に加え、国外資産の報告義務化、マイナンバー制度の導入など、からめ手としての手法も続々と導入されることになりました。企業活動に窮屈な状況が出現しており、中小企業経営者からはやや暗い世相とも見えます。

「天地返し、大胆不敵に今」

アベノミクス第 1 の矢の金融政策により、お金はじゃぶじゃぶになっています。第 2 の矢の財政政策では、またぞろ整備新幹線が浮上してくるほど過熱感がでてきました。問題の第 3 の矢の成長戦略に、日本の命運がかかっています。円安により、輸出依存企業は、一息つきました。一方、原材料価格の上昇を価格転嫁できない多くの中小企業の喘ぎも想像に難くありません。国民と国内中小企業を締め付ければ国の財政が改善するなどとは為政者が考えるはずもなく、国は、国家の運命をかけた戦略に挑戦せざるを得ません。従来を破った規制緩和政策を始めとする多くの成長戦略が始動していく事になります。多くの中小企業が、この千載一遇のチャンスをものにして欲しいと願ってやみません。

「避けて通れない国際化」

中小企業と大企業との間に格差の拡大こそあれ、棲み分けや協業などは存在しなくなりました。その号砲は BIS 規制に始まり、グローバル化、ボーダーレス化により国際基準が誕生し、国際税務戦略としての企業の移転が巷を賑わしています。中小企業としても国際税務を避けて通れない時代になってきました。

私どもは微力ではありますが、中小企業の皆様のバックオフィスとして、社内熟成した経営・労務等の機能を提供させていただき所存ですので、本年も宜しくお願い申し上げます。

経理の記帳代行、給与計算事務の他にも、英文による国際会計・財務報告、海外取引上のレポート作成等のご相談も承りますので、お気軽にご連絡下さい。